

(様式1)

1 自己評価及び外部評価結果

作成日

令和4年11月22日

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3490100421		
法人名	JTS株式会社		
事業所名	グループホーム樹		
所在地	広島県広島市安佐北区深川1丁目42-23 (電話) (082) 554-8134		
自己評価作成日	令和4年10月25日	評価結果市町受理日	

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/34/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=3490100421-00&ServiceCd=320&Type=search
-------------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	一般社団法人広島県シルバーサービス振興会
所在地	広島市南区皆実町一丁目6-29
訪問調査日	令和4年11月16日

【事業所が特に力を入れている点、アピールしたい点（事業所記入）】

施設は、田んぼや畑、山々の様子で四季折々の背景が楽しめる自然に囲まれた住宅街に立地しています。施設を出ると芸備線を見ることができ感染症が流行している中ではありますが、施設周辺の散歩に出かけることもあります。毎日の生活の中での役割・行事・活動での料理作りや花を育てたり、皆さんで分担しながら助け合い積極的に取り組み、生きがい・やりがいを感じています。

現在は感染拡大防止により、面会・外出の自粛をしておりますが、面会などご家族様との関りを切らないために、またガラス越し面会や感染対策をしながらの面会を行っております。地域行事への参加はできない状況ではありますが、ご利用者様、ご家族様、地域の方、職員、皆さんで協力し支え合い、笑顔溢れる地域に密着し開かれた施設を目指しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

グループホーム樹は理念のもと、利用者一人ひとりの状態や状況を把握し、職員は細部に亘り話し合いを行う事で、しっかりと対応し実践に繋げている。コロナ禍においてタブレットを活用し、家族とLINE（ライン）通話することを目指したが、その結果は家族の年齢等を考慮し、今まで通りの対面式の面会に戻している。普段の健康管理は、常に2名のかかりつけ医が、薬に頼らない医療に努め、家族が要望すれば受診に立ち会うこともできる。また災害対策においては、事業所がある場所の位置・危険性を把握し近隣の介護施設の協力を得て、避難場所を確保し有事に備えている。事業所は日頃より多くの関係者の協力を得ながら進化しているが、何よりも優れている点は、管理者及び職員が利用者に対して深い愛情を持ち、日々利用者と向き合いサービスを行っている点である。

自己評価	外部評価	項目(桜)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	朝礼で理念の唱和することで、動機付けを行っている。また、事業所会議を通じて理念についての自己への振り返りを図るとともに、フロア会議を実施しより細分化することで、事業所全体の意識づけへとつなげている。	事業所は法人理念「お互いのありがたいを大切に」をもとに、運営方針・樹の理念を定め利用者に寄り添い、地域と共に暮らせるよう取り組んでいる。職員は毎年行っているアンケートに沿い、改善点を確認し利用者のその人らしい暮らしを支援している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	ご利用者様との散歩の際や、洗濯物干しなどで地域の方々とお会いさせていただく際には、職員より積極的にご挨拶させていただいている。感染症により、地域への参加は難しい状況が続いているが、リモートにて参加を始めた。	コロナ禍において、イベントに参加することが困難で、地域の情報は町内会の回覧で情報を得ている。職員は途切れない付き合いを大切に、近隣の住民とは越越しに常に挨拶をしている。また地域の安佐北ミミの会（オンラインによる傾聴活動）に参加し、地域とのつきあいを深めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	リモートでの交流が図れたことで、社会福祉協議会の広報誌へ活動内容が掲載された。地域の方へ事業所の状況等が目に触れることができた。さらに日頃の挨拶なども通じて、ご利用者様と触れ合っていたく事で、自然に認知症への理解へとつながっていると考えている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実績、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	定期的に2か月に1回、運営推進会議を開催しているが、コロナにより施設内の会議には、至っておらず。文章での会議となり、事業所での取組みや外部から事業所への課題についてもお話をいただけ、また、民生委員も参加者として出席してくれたことで、さらに状況を公表することができるようになった。	書面会議の形式で行い、多職種の関係者に事前に意見をもらいながら、より良い支援に活かすよう取り組んでいる。事業所は現在の状況を細かく報告し、質問があれば答えている。議事録は毎回関係者に送付し、更なる意見交換に繋げサービスの向上に活かすよう努力している。	会議は定期的に行われているが、議事録として家族に届けていない。今後の改善課題の情報共有のためにも、議事録の送付が望まれる。また家族の意見を促す等、更なる取組みに期待する。
5	4	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実績やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	地域包括支援センターや居宅支援センターの方々と日頃からコミュニケーションを図り、ご利用者様や新規ご利用者様への働きかけなどをご相談させていただいている。また、介護サービスへの疑問や不明への確認や、報告をさせていただいている。	市とは定期的に連絡を取っており、常に良好な関係を築けるよう努力している。市とは例えば介護サービスの種類や就労支援の方法等、問い合わせたり、日頃より市担当者とは連絡をとりながら、協力関係を築くよう取り組んでいる。	

自己評価	外部評価	項目(桜)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	事業所内の勉強会を通じ、定期的に身体拘束について職員間で意識統一と意識付けを行っている。日常的に業務的になりご利用者様本位になっていない面が無いかなど、フロアの主任が中心となり日々の業務時間を通じて、対話をする事で全体の振り返りを図っている。	職員は日常の話し合いの中で、「ひもときシート」を参考に、身体拘束をしないケアの大切さを把握している。例えば言葉による拘束や冷たい態度にならない等、フロアで事例を上げ注意喚起を行い、職員間で気を配りながらリスクを減らすよう取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	事業所内の勉強会を通じ、定期的に虐待の防止について職員間で意識統一と意識付けを行っている。日頃の業務中に不適切なケアになっていないかなど、主任・副主任が中心となり振り返り、管理者は職員の思いにも寄り添えるように、日頃からコミュニケーションを図り、個別面談をおこない体制づくりに努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	各研修への参加などをこれからも行っていくとともに、必要に応じて各関係者とも連携を図り、ご利用者様やご家族様などからもご質問や疑問の相談に応じられるように努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約書を基にご説明等を行い、ご不明な点や疑問にも気軽にご相談いただける様に、分かりやすい言葉を選び、環境づくりを行っている。連絡ツールも電話だけではなく、時代にあわせご家族様が相談しやすいように、環境を整えている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	ご利用者様からは、日々の生活の中からお話がいただけるように、言葉かけをさせていただき、ご家族様には、ご面会時や電話、連絡ツールなどからも思いをいただいている。いただいた内容は、職員間で共有しご希望や要望に対して、対応できる範囲はどこまでかを話し合い対応している。	事業所は家族からの要望を反映するため、定期的に身近な出来事を知らせている。コロナ禍の現在、ガラス越しでの面会を玄関口とフロアで距離をとりながら面会することで、互いの温もりを感じられるよう工夫している。また、対応可能な範囲での外出も、家族と連携を取りながら支援している。	

自己評価	外部評価	項目(桜)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	事業所会議やフロア会議、日々の言葉かけを通じて、意見や思いを受け入れられる体制づくりを行っている。主任・副主任へ相談し、管理者へ相談があがることもある。不安を抱える職員に対しては適宜面談を行い、全職員に対しては、年に1回は面談日を設け、働きやすい環境づくりに努めている。	職員からの意見は会議の場のみではなく、個人面談等さまざまな場面で行い、働きやすい環境を作る為の体制を整えている。管理者と職員は信頼関係を構築しており、業務改善においても食事介助の方法や入浴の支援方法等、時間の使い方を工夫するなど必要に応じ反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	管理者や主任・副主任、職員から職員個々の努力や実績の報告などを聴き、また自己評価などとすり合わせながら、日々の業務の中での職員状況を把握し、日々のコミュニケーションや個別面談を通じて、働きやすい環境づくりが整うよう努めている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	事業所外部への研修を職員個々の状況に合わせ受講し、スキルアップにつなげている。研修の情報を回覧などで活用して職員個々でも参加できる研修への働きかけを行っている。また、ネットワークを使った研修にも参加できるように、環境づくりを行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	各研修や勉強会への参加をすることで、事業所外からの学びを基に、事業所会議などで職員間で共有し、サービスへの活用を図り、より質が高められるように努めている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	アセスメントシートを基にご本人様よりいただくお話を整理しながら、またご本人様からの思いを引出し、要望や不安を解決でき不安なく生活していただけるように、務めている。また、ご家族様への聞き取りなども行い、安心できる場の提供を心がけている。		

自己評価	外部評価	項目(桜)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	ご家族様には、ご利用を開始する前に可能な範囲で事業所の見学をしていただき、日々の様子を感じ施設見学の後には、ご相談を受け現時点での不安やお困りごとなどを伺っている。サービスを開始する際には、改めて要望や不安などをお伺いし、より安心していただけるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	ご家族様には、ご利用を開始する前に施設見学をしていただいた後に、お話を聴く場を設けることにより、現時点での支援について把握します。サービス開始時点では改めてご要望や不安などをお伺いし、より安心していただけるようなサービス内容になるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	日常生活の中で、ご本人様が出来る事をお話し、協力しながら共助を築いていけるように努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	ご面会時や、月一度の近況報告のお便りにより、ご本人様のここでの生活を知らせていただき、その姿をご家族様に見ていただく事で何を日頃されているかを把握できることで、安心して穏やかに過ごしていただけるように協力をいただきながら、支援していただけるように努めている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	馴染みの方からのお手紙を代読させていただいたり、絵手紙を出せるように準備を行っている。定期的な送付している写真なども楽しみにされ、地域の方や親戚や知人などへ見せている事もある。	毎日の生活を通して、利用者が希望することを把握し関係の継続に努めている。コロナ禍において、家族と共に食事に出掛けたりは出来ないが、今年は近隣の子供みこしの訪問があった。家族から手紙が送られて来ることもあり、希望が有れば代筆も行っている。	

自己評価	外部評価	項目(桜)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	時間になると自席につかれる他者を観て、ご利用者が自席につかれ挨拶から始まり、一緒に作業をするなど自然な姿がある。毎日の習慣として、お盆拭きや掃除などからの交流により、他者を思いやる言葉をお聞きすることがある。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	サービスが終了しても、ご相談があったりと繋がりを持ちながらご相談や支援を、また関係機関に連携を図ったりしている。		

Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	ご本人が何に困っておられるのか、何を不安に思っておられるのかを、会話や言動・行動などを通じて、理解をしたいという思いを忘れずに職員間で声をかけあい、または事業所会議やフロア会議などからも発信し、全職員の共通認識できる面は周知に努めている。	利用者の思いを引き出せるよう、職員は日々の関わりの中で、積極的にコミュニケーションを図っている。外出が自由に出来ない現在、散歩の要望があれば職員と共に歩いたり、掃除や食器洗いを行うなど、生活のリズムを把握しながら希望に添えるよう支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	生活歴をもとに、今のサービスがご本人様にとって安心の出来るものなのかを念頭に置き、現状からより良いサービスが提供できるように、ご家族様からも情報をいただきながら、把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	日々の生活を通じて、体調不良の早期発見や継続しての状況把握など職員間の情報交換も大切にし、申し送りや連絡ノートを通じて職員への周知を図っている。		

自己評価	外部評価	項目(桜)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。</p>	<p>居室担当者を柱として定期的にモニタリングを行い、ご本人様を中心にご家族様からの思いを含め、多職種とも協働しご利用者様が安心してサービスが受けられるような計画の検討を行っている。</p>	<p>モニタリングは3ヶ月に1回行い、本人、家族の要望をもとに現状に即した介護計画を作成している。また普段の会話から情報の掘り起こし、マンネリ化しないよう見直し、関係者が話し合いを行い適宜、現状に即した計画を修正し立案している。</p>	
27		<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。</p>	<p>日々の生活やケアに関して、生活記録・看護記録に分けて記入し、申し送りを中心に情報の伝達をおこなっている。状況によっては、適時カンファレンスをするため、フロア会議を開催するように、努めている。</p>		
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</p> <p>本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。</p>	<p>ご本人様の思いを柱として、ご家族様にご相談させていただき、他の医療機関や他のサービスを活用しながら、事業所で安心して生活を継続していただけるように、努めている。</p>		
29		<p>○地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。</p>	<p>リモートの地域ボランティアの来訪などを通じて、地域の方々と触れ合うことにより、適度な緊張感に合わせ「楽しかった」という気持ちから、昔を振り返る中で以前にも同じ気持ちになったことなどへつながるなど、刺激になっている。</p>		
30	11	<p>○かかりつけ医の受診支援</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。</p>	<p>入所前からご利用されていた、かかりつけ医が継続して往診されたり、通院を継続していたりと、ご本人様とご家族様が納得して生活を継続していただけるように、医療機関とも連携を図っている。入所前のかかりつけ医と情報交換を図りながら、適切な医療の提供に努めている。</p>	<p>利用者は全員、二人のかかりつけ医の往診(2週間に1回と月に1回)を受けている。歯科も口腔ケアを含め往診がある。家族の希望が有れば直接かかりつけ医と話すことが出来る。夜間を含めオンコール体制で看護師(訪問看護)医師が連携し、必要に応じて適切に支援を受けている。</p>	

自己評価	外部評価	項目(桜)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	日々の観察を基に、「いつもと違う」変化に気づきあえるよう、申し送りや職員間でのコミュニケーションを図り、変化時には訪問看護との連携を密に図っている。 訪問看護師との、報告・連絡・相談を継続して努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院された場合には、提携先病院を始め、かかりつけ医からの指示により通院、入院となるため、ご本人様、ご家族様もより安心した医療を受けることができる。 加療中にはご家族様や、病院先に出向き、また電話連絡など連携を図り状況把握に努めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	ご契約時に、事業所の方針についてご説明をさせていただき、看取りについての意志を伺っている。 定期的に改めて、意志のご確認をさせていただきながら、かかりつけ医や医療機関との連携体制を整え、支援体制にも努めている。	事業所は看取りの事例が有り、重度化した利用者に対して積極的に支援を行い、かかりつけ医のもと、看護師及び関係者が協力し取り組んでいる。職員はフロア横に有る地域交流室のドアを開け、重度化した利用者のベッドを配置し、チームで支援に取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	事業所内の勉強会を通じ、職員間で意識統一と意識の確認を行っている。外部講習会などにも参加し、実践力を培い新たに事業所に持ち帰り、職員間でも共有にも努めていきたい。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	定期的に消防署に依頼し、訓練を実施している。水災害の危険がある区域のため、指定避難場所の確認や協力施設の増大を図る。早期の対応ができるように、職員間でも情報収集に努めるとともに、訓練などを通じて、災害時には対応できるように努めている。	年2回の避難訓練を、夜間を含め利用者と共に行っている。風水害もハザードマップを活用し、様々なパターンを想定し訓練を行っている。実際に近くの高層建物の高齢者施設に避難した経験があり、受け入れて貰える事で安心して繋げている。また備蓄もローリングストックを行いながら確保している。	

自己評価	外部評価	項目(桜)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	勉強会を通じ、尊厳・プライバシーについての学びを定期的に行っている。また、日々の関りの中で他職員の対応が気になる場面は業務内で話し合うように務めている。主任・副主任を柱に、日々の関りの中でも職員間で声を掛け合うことで意識づけにも努めている。	職員は利用者一人ひとりの生活歴を把握し、情報を共有し支援している。普段の言葉かけや対応にも気を配り実践に繋げている。更に日頃の生活で睡眠不足や食欲不振等、違いがないかを確認し対応している。職員は話し合いで接遇、権利関係等を確認し支援に繋げている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	ご本人様の発言、行動の観察を日々おこなう中で、変化に気づきご本人様の思いに寄り添いながら、職員間でも情報を共有し、今できる最善のケアでご対応させていただき、状況によってはご家族様へのご協力を得ながら支援に努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	ご利用者様一人ひとりの価値観・生活観を尊重し、ご利用者様同士でもお互いのペースが保てられるように、職員が橋渡しをすることにより、ご利用者様の思いに寄り添い過ぎていただけよう努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	2か月に一度、訪問美容に来院していただいている。ご本人様の思いに寄り添えるように、細かな点まで相談にのっていただいている。ご本人様に伺いながら、季節に合わせた洋服選びに努めている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	食事前にはメニューのご説明をさせていただき、食器などは陶器を使用することにより家庭的な雰囲気を保っている。食後には、お盆拭きや食器洗いなども、ご協力いただけるように努めている。	日常は配食を利用し、おやつはお菓子を買ったり時には利用者と手作りをする。食事環境も時には席替えを行い、利用者同士が楽しく食事が出来る様支援している。外食が出来ない今は、タイ焼やたこ焼等冷凍食品を利用し、何時でもリクエストに応えられるようにしている。	

自己評価	外部評価	項目(桜)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	水分チェック表にてご本人様の水分量の把握に努めている。 1日1000ccを目安に、ご本人様の嗜好に合わせた水分形態をとりつつも、水分量が安定するように細やかな言葉かけに努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	訪問歯科医師によるチェックを実施していただき、口腔内の汚れやすい箇所等を把握し口腔ケアを実施している。異常がある場合には感染対策を図りながら往診をしていただいている。自立して口腔ケアを行われる方には、言葉かけを行い清潔に保てるように努めている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	排泄チェック表により、パットでの排泄ではなく、便器での排泄を可能に出来るように、ご本人様のパターンに合わせてトイレへの言葉かけをおこなっている。定期的にフロア職員が適切な排泄パターンとなっているかを検討しながら、より良いケアへと努めている。	利用者の排泄パターンを把握し、状態を確認しながら行い、改善に繋げるよう取り組んでいる。又、排便もトイレへの習慣づけを行いながら、薬のみでなく食事にも気を配り、マッサージ等も利用し、自立に向けた支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	水分チェック表にてご本人様の水分量の把握に努め、1日1000ccを目安に、ご本人様の嗜好に合わせた水分形態をとりつつも、個々に合わせヨーグルトなどを提供している。足運動や散歩などで腸への刺激を図りながら状況に応じて、排泄を促すように薬の活用にも努めている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている。	ご本人様のご希望に沿えるように言葉かけをさせていただきながら、午前浴を基本とし入浴を週2回、ご提供できるように努めている。また、一般浴槽では入浴できておられない方へは、リハビリも兼ねてデイケアの利用なども検討している。	基本的には週2回の午前を基本としている。浴室は家庭のお風呂に近い広さで、浴室の温度管理においても、パネルを設置し心地よい環境を保ち支援を行っている。普段は入浴剤は使用せずシャンプーは希望があれば、個人専用の利用者もいる。皮膚科の指示で入浴後、塗り薬を使用する利用者もいる。	

自己評価	外部評価	項目(桜)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		<p>○安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々 の状況に応じて、休息したり、安 心して気持ちよく眠れるよう支 援している。</p>	<p>日々の生活の中で、適度な運動 を促し過度にならない様に、休 息時間も確保し安眠に繋がるよ うに努めている。</p>		
47		<p>○服薬支援</p> <p>一人ひとりを使用している薬の 目的や副作用、用法や用量につ いて理解しており、服薬の支援 と症状の変化の確認に努めてい る。</p>	<p>事業者内の勉強会で、ご利用者 様の内服薬の把握に努めながら、 状況変化などがあつた際には、 かかりつけ医・看護師へ報告し 対応に務めている。</p>		
48		<p>○役割、楽しみごとの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過 ごせるように、一人ひとりの生 活歴や力を活かした役割、嗜好 品、楽しみごと、気分転換等の 支援をしている。</p>	<p>ご利用者様の生活史から楽し みに合わせて、中庭の土いじり や家事分担などのやりたいこと に、取り組んでいただけるよう な支援に努めている。</p>		
49	18	<p>○日常的な外出支援</p> <p>一人ひとりのその日の希望に そつて、戸外に出かけられるよ う支援に努めている。また、普 段は行けないような場所でも、 本人の希望を把握し、家族や 地域の人々と協力しながら出 かけられるように支援してい る。</p>	<p>ご本人様の思いを基に、近所 のスーパーへの外出支援、行 事への参加など、ご本人様が 求められる希望に寄り添いな がら、外出支援に努めていき たいと考えているが、感染症 により実施までできていない。</p>	<p>出掛ける事が困難な現在、職 員は利用者が望む外出を考え、 外気浴を楽しんで貰うため、 中庭に植えたイモの栽培を行 ったり、時には車で1～2分の スーパーに、アイスクリームや 果物を買っている。職員は安 心、安全な外出支援に取り組 んでいる。</p>	
50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つこと の大切さを理解しており、一人 ひとりの希望や力に応じて、 お金を所持したり使えるよう に支援している。</p>	<p>嗜好品等の購入の為、ご本人 様の思う嗜好品の購入ができ るように、支援をしている。ご 家族様より預り金をさせてい ただいており、気軽に出向ける ように準備はしているが、感 染症により外出は自粛している ため、職員が代行して買い物 は行っている。</p>		

自己評価	外部評価	項目(桜)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	ご本人様からの希望に寄り添い、ご家族様やお知り合いなどに連絡を取る機会もある。ご本人様から、依頼されると代筆なども支援している。ご本人様宛のお手紙などは、ご依頼があれば代読などもさせていただいている。		
52	19	○居心地の良い共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	玄関や中庭からなど適度な自然光を取り入れながら、またご家庭で生活をされておられた環境により近づけるように、居室や浴室なども光には配慮している。電車などの音が時折聞こえるが、芸備線地区の方もおられ、親しまれた音を感じることもできている。	広いリビングの壁には、職員と利用者が作った季節の作品を飾ってある。外出が出来ない現在リビングで季節ごとに行事を行い、時には室内運動会を開催している。また日頃は電車が通過する音でうたたねする人もいる。利用者が落ち着く共有の場所になっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	お一人になりたい際には、ソファやお気に入りの椅子などに腰掛けられるような、空間づくりを行っている。お食事の席が、決まっていることでお一人お一人のスペースを確保することにより、顔馴染みの方との会話も楽しめるようにと努めている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	ご利用者様が思いをもたれていた家具や仏壇などを居室に置かせていただく事で、ご自分の安全で安心していただけるスペースとして、過ごしていただき、ご本人様への生活史に寄り添うように努めている。	職員は利用者一人ひとりが大切にしているものを把握している。入口は利用者が迷わないよう名前が掛けてある。居室はベッドやクローゼットが備え付けられ、仏壇やイスを設置している利用者もおり、自由に過ごせる配慮をしている。部屋の掃除は職員が行うが利用者が手伝う事も有る。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	ご利用者様一人ひとりの身体状況を把握し、動線には危険なものはない様にしながら、殺風景にならない様に適度な物の配置をしている。ご利用者様の状況により、事業者会議やフロア会議などで配置も検討しながら、より良い環境づくりに努めている。		

V アウトカム項目(桜) ← 左記()内へユニット名を記入願います			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外への行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の3分の2くらいと ③家族の3分の1くらいと ④ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	<input type="radio"/> ①ほぼ毎日のように <input type="radio"/> ②数日に1回程度 <input type="radio"/> ③たまに <input type="radio"/> ④ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	<input type="radio"/> ①大いに増えている <input type="radio"/> ②少しずつ増えている <input type="radio"/> ③あまり増えていない <input type="radio"/> ④全くいない
66	職員は、生き活きと働けている	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> ②職員の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③職員の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> ②利用者の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③利用者の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> ②家族等の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③家族等の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどできていない

自己評価	外部評価	項目(楓)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	朝礼で理念の唱和することで、動機付けを行っている。また、事業所会議を通じて理念についての自己への振り返りを図るとともに、フロア会議を実施しより細分化することで、事業所全体の意識づけへとつなげている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	ご利用者様との散歩の際や、洗濯物干しなどで地域の方々とお会いさせていただく際には、職員より積極的にお挨拶させていただいている。感染症により、地域への参加は難しい状況が続いているが、リモートにて参加を始めた。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	リモートでの交流が図れたことで、社会福祉協議会の広報誌へ活動内容が掲載された。地域の方へ事業所の状況等が目に触れることができた。さらに日頃の挨拶なども通じて、ご利用者様と触れ合っていたく事で、自然に認知症への理解へとつながっていると考えている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実績、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	定期的に2か月に1回、運営推進会議を開催しているが、コロナにより施設内の会議には、至っておらず。文章での会議となり、事業所での取組みや外部から事業所への課題についてもお話をいただけ、また、民生委員も参加者として出席してくれたことで、さらに状況を公表することができるようになった。		
5	4	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実績やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取組んでいる。	地域包括支援センターや居宅支援センターの方々と日頃からコミュニケーションを図り、ご利用者様や新規ご利用者様への働きかけなどをご相談させていただいている。 また、介護サービスへの疑問や不明への確認や、報告をさせていただいている。		

自己評価	外部評価	項目(楓)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	事業所内の勉強会を通じ、定期的に身体拘束について職員間で意識統一と意識付けを行っている。日常的に業務的になりご利用者様本位になっていない面が無いかなど、フロアの主任が中心となり日々の業務時間を通じて、対話をする事で全体の振り返りを図っている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	事業所内の勉強会を通じ、定期的に虐待の防止について職員間で意識統一と意識付けを行っている。日頃の業務中に不適切なケアになっていないかなど、主任・副主任が中心となり振り返り、管理者は職員の思いにも寄り添えるように、日頃からコミュニケーションを図り、個別面談をおこない体制づくりに努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	各研修への参加などをこれからも行っていくとともに、必要に応じて各関係者とも連携を図り、ご利用者様やご家族様などからもご質問や疑問の相談に応じられるように努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約書を基にご説明等を行い、ご不明な点や疑問にも気軽にご相談いただける様に、分かりやすい言葉を選び、環境づくりを行っている。連絡ツールも電話だけではなく、時代にあわせご家族様が相談しやすいように、環境を整えている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	ご利用者様からは、日々の生活の中からお話がいただけるように、言葉かけをさせていただき、ご家族様には、ご面会時や電話、連絡ツールなどからも思いをいただいている。いただいた内容は、職員間で共有しご希望や要望に対して、対応できる範囲はどこまでかを話し合い対応している。		

自己評価	外部評価	項目(楓)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	事業所会議やフロア会議、日々の言葉かけを通じて、意見や思いを受け入れられる体制づくりを行っている。主任・副主任へ相談し、管理者へ相談があがることもある。不安を抱える職員に対しては適宜面談を行い、全職員に対しては、年に1回は面談日を設け、働きやすい環境づくりに努めている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	管理者や主任・副主任、職員から職員個々の努力や実績の報告などを聴き、また自己評価などとすり合わせながら、日々の業務の中での職員状況を把握し、日々のコミュニケーションや個別面談を通じて、働きやすい環境づくりが整うよう努めている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	事業所外部への研修を職員個々の状況に合わせ受講し、スキルアップにつなげている。研修の情報を回覧などで活用して職員個々でも参加できる研修への働きかけを行っている。また、ネットワークを使った研修にも参加できるように、環境づくりを行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	各研修や勉強会への参加をすることで、事業所外からの学びを基に、事業所会議などで職員間で共有し、サービスへの活用を図り、より質が高められるように努めている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	アセスメントシートを基にご本人様よりいただくお話を整理しながら、またご本人様からの思いを引出し、要望や不安を解決でき不安なく生活していただけるように、務めている。また、ご家族様への聞き取りなども行い、安心できる場の提供を心がけている。		

自己評価	外部評価	項目(楓)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	ご家族様には、ご利用を開始する前に可能な範囲で事業所の見学をしていただき、日々の様子を感じ施設見学の後には、ご相談を受け現時点での不安やお困りごとなどを伺っている。サービスを開始する際には、改めて要望や不安などをお伺いし、より安心していただけるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	ご家族様には、ご利用を開始する前に施設見学をしていただいた後に、お話を聴く場を設けることにより、現時点での支援について把握します。サービス開始時点では改めてご要望や不安などをお伺いし、より安心していただけるようなサービス内容になるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	日常生活の中で、ご本人様が出来る事をお話し、協力しながら共助を築いていけるように努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	ご面会時や、月一度の近況報告のお便りにより、ご本人様のここでの生活を知らせていただき、その姿をご家族様に見ていただく事で何を日頃されているかを把握できることで、安心して穏やかに過ごしていただけるように協力をいただきながら、支援していけるように努めている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	馴染みの方からのお手紙を代読させていただいたり、絵手紙を出せるように準備を行っている。定期的に送付している写真なども楽しみにされ、地域の方や親戚や知人などへ見せている事もある。		

自己評価	外部評価	項目(楓)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	時間になると自席につかれる他者を観て、ご利用者様が自席につかれ挨拶から始まり、一緒に作業をするなど自然な姿があります。毎日の習慣として、お盆拭きや掃除などからの交流により、他者を思いやる言葉をお聞きすることがあります。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	サービスが終了しても、ご相談があったりと繋がりを持ちながらご相談や支援を、また関係機関に連携を図ったりしております。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	ご本人が何に困っておられるのか、何を不安に思っておられるのかを、会話や言動・行動などを通じて、理解をしたいという思いを忘れずに職員間で声をかけあい、または事業所会議やフロア会議などからも発信し、全職員の共通認識できる面は周知に努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	生活歴をもとに、今のサービスがご本人様にとって安心の出来るものなのかを念頭に置き、現状からより良いサービスが提供できるように、ご家族様からも情報をいただきながら、把握に努めていっている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	日々の生活を通じて、体調不良の早期発見や継続しての状況把握など職員間の情報交換も大切にし、申し送りや連絡ノートを通じて職員への周知を図っている。		

自己評価	外部評価	項目(楓)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。</p>	<p>居室担当者を柱として定期的にモニタリングを行い、ご本人様を中心にご家族様からの思いを含め、多職種とも協働しご利用者様が安心してサービスが受けられるような計画の検討を行っている。</p>		
27		<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。</p>	<p>日々の生活やケアに関して、生活記録・看護記録に分けて記入し、申し送りを中心に情報の伝達をおこなっている。状況によっては、適時カンファレンスをするため、フロア会議を開催するように、努めている。</p>		
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</p> <p>本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。</p>	<p>ご本人様の思いを柱として、ご家族様にご相談させていただき、他の医療機関や他のサービスを活用しながら、事業所で安心して生活を継続していただけるように、努めている。</p>		
29		<p>○地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。</p>	<p>リモートの地域ボランティアの来訪などを通じて、地域の方々と触れ合うことにより、適度な緊張感に合わせ「楽しかった」という気持ちから、昔を振り返りをする中で以前にも同じ気持ちになったことなどへつながるなど、刺激になっている。</p>		
30	11	<p>○かかりつけ医の受診支援</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。</p>	<p>入所前からご利用されていた、かかりつけ医が継続して往診されたり、通院を継続していたりと、ご本人様とご家族様が納得して生活を継続していただけるように、医療機関とも連携を図っている。入所前のかかりつけ医と情報交換を図りながら、適切な医療の提供に努めている。</p>		

自己評価	外部評価	項目(楓)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	日々の観察を基に、「いつもと違う」変化に気づきあえるよう、申し送りや職員間でのコミュニケーションを図り、変化時には訪問看護との連携を密に図っている。訪問看護師との、報告・連絡・相談を継続して努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院された場合には、提携先病院を始め、かかりつけ医からの指示により通院、入院となるため、ご本人様、ご家族様もより安心した医療を受けることができる。加療中にはご家族様や、病院先に出向き、また電話連絡など連携を図り状況把握に努めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	ご契約時に、事業所の方針についてご説明をさせていただき、看取りについての意志を伺っている。定期的に改めて、意志のご確認をさせていただきながら、かかりつけ医や医療機関との連携体制を整え、支援体制にも努めている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	事業所内の勉強会を通じ、職員間で意識統一と意識の確認を行っている。外部講習会などにも参加し、実践力を培い新たに事業所に持ち帰り、職員間でも共有にも努めていきたい。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	定期的に消防署に依頼し、訓練を実施している。水災害の危険がある区域のため、指定避難場所の確認や協力施設の増大を図る。早期の対応ができるように、職員間でも情報収集に努めるとともに、訓練などを通じて、災害時には対応できるように努めている。		

自己評価	外部評価	項目(楓)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	勉強会を通じ、尊厳・プライバシーについての学びを定期的に行っている。また、日々の関りの中で他職員の対応が気になる場面は業務内で話し合うように務めている。主任・副主任を柱に、日々の関りの中でも職員間で声を掛け合うことで意識づけにも努めている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	ご本人様の発言、行動の観察を日々おこなう中で、変化に気づきご本人様の思いに寄り添いながら、職員間でも情報を共有し、今できる最善のケアでご対応させていただき、状況によってはご家族様へのご協力を得ながら支援に努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	ご利用者様一人ひとりの価値観・生活観を尊重し、ご利用者様同士でもお互いのペースが保てられるように、職員が橋渡しをすることにより、ご利用者様の思いに寄り添い過ごしていただけるよう努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	2か月に一度、訪問美容に来院していただいている。ご本人様の思いに寄り添えるように、細かな点まで相談にのっていただいている。ご本人様に伺いながら、季節に合わせた洋服選びに努めている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	食事前にはメニューのご説明をさせていただき、食器などは陶器を使用することにより家庭的な雰囲気を保っている。食後には、お盆拭きや食器洗いなども、ご協力いただけるように努めている。		

自己評価	外部評価	項目(楓)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	水分チェック表にてご本人様の水分量の把握に努めている。 1日1000ccを目安に、ご本人様の嗜好に合わせた水分形態をとりつつも、水分量が安定するように細やかな言葉かけに努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	訪問歯科医師によるチェックを実施していただき、口腔内の汚れやすい箇所等を把握し口腔ケアを実施している。異常がある場合には感染対策を図りながら往診をしていただいている。自立して口腔ケアを行われる方には、言葉かけを行い清潔に保てるように努めている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	排泄チェック表により、パットでの排泄ではなく、便器での排泄を可能に出来るように、ご本人様のパターンに合わせてトイレへの言葉かけをおこなっている。定期的にフロア職員が適切な排泄パターンとなっているかを検討しながら、より良いケアへと努めている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	水分チェック表にてご本人様の水分量の把握に努め、1日1000ccを目安に、ご本人様の嗜好に合わせた水分形態をとりつつも、個々に合わせヨーグルトなどを提供している。足運動や散歩などで腸への刺激を図りながら状況に応じて、排泄を促すように薬の活用にも努めている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている。	ご本人様のご希望に浴えるように言葉かけをさせていただきながら、午前浴を基本とし入浴を週2回、ご提供できるように努めている。また、一般浴槽では入浴できておられない方へは、リハビリも兼ねてデイケアの利用なども検討している。		

自己 評価	外部 評価	項 目(楓)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々 の状況に応じて、休息したり、安 心して気持ちよく眠れるよう支 援している。	日々の生活の中で、適度な運動 を促し過度にならない様に、休 息時間も確保し安眠に繋がるよ うに努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりを使用している薬の 目的や副作用、用法や用量につ いて理解しており、服薬の支援 と症状の変化の確認に努めてい る。	事業者内の勉強会で、ご利用 者様の内服薬の把握に努めなが ら、状況変化などがあつた際 には、かかりつけ医・看護師へ 報告し対応に務めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過 ごせるように、一人ひとりの生 活歴や力を活かした役割、嗜好 品、楽しみごと、気分転換等の 支援をしている。	ご利用者様の生活史から楽し みに合わせて、中庭の土いじり や家事分担などのやりたいこと に、取り組んでいただけるよう な支援に努めている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそ って、戸外に出かけられるよう 支援に努めている。また、普段 は行けないような場所でも、本 人の希望を把握し、家族や地 域の人々と協力しながら出かけ られるように支援している。	ご本人様の思いを基に、近所 のスーパーへの外出支援、行 事への参加など、ご本人様が 求められる希望に寄り添いな がら、外出支援に努めていき たいと考えているが、感染症 により実施までできておら ず。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つこと の大切さを理解しており、一人 ひとりの希望や力に応じて、お 金を所持したり使えるように支 援している。	嗜好品等の購入の為、ご本人 様の思う嗜好品の購入ができ るように、支援をしている。 ご家族様より預り金をさせて いただき、気軽に出向けるよ うに準備はしているが、感 染症により外出は自粛してい るため、職員が代行して買 物を行っている。		

自己評価	外部評価	項目(楓)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	ご本人様からの希望に寄り添い、ご家族様やお知り合いなどに連絡を取る機会もある。 ご本人様から、依頼されると代筆なども支援している。 ご本人様宛のお手紙などは、ご依頼があれば代読などもさせていただいている。		
52	19	○居心地の良い共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	玄関や中庭からなど適度な自然光を取り入れながら、またご家庭で生活をされておられた環境により近づけるように、居室や浴室なども光には配慮している。電車などの音が時折聞こえるが、芸備線地区の方もおられ、親しまれた音を感じることもできている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	お一人になりたい際には、ソファやお気に入りの椅子などに腰掛けられるような、空間づくりを行っている。お食事の席が、決まっていることでお一人お一人のスペースを確保することにより、顔馴染みの方との会話も楽しめるようにと努めている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	ご利用者様が思いをもたれていた家具や仏壇などを居室に置かせていただく事で、ご自分の安全で安心していただけるスペースとして、過ごしていただき、ご本人様への生活史に寄り添うように努めている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	ご利用者様一人ひとりの身体状況を把握し、動線には危険なものは置かないようにするが、殺風景にならない様に適度な物の配置をしている。ご利用者様の状況により、事業者会議やフロア会議などで配置も検討しながら、より良い環境づくりに努めている。		

V アウトカム項目(楓) ← 左記()内へユニット名を記入願います

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外への行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の3分の2くらいと ③家族の3分の1くらいと ④ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	<input type="radio"/> ①ほぼ毎日のように <input type="radio"/> ②数日に1回程度 <input type="radio"/> ③たまに <input type="radio"/> ④ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	<input type="radio"/> ①大いに増えている <input type="radio"/> ②少しずつ増えている <input type="radio"/> ③あまり増えていない <input type="radio"/> ④全くいない
66	職員は、生き活きと働けている	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> ②職員の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③職員の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> ②利用者の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③利用者の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> ②家族等の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③家族等の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどできていない

(様式2)

2 目標達成計画

事業所名 グループホーム樹

作成日 令和3年12月13日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点, 課題	目標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	1 3 ・ 1 4	職員の自己覚知に繋がる研修への参加が出来ていない。	研修(オンラインを含む)に参加をする。	職員の能力、経験等により、適切な研修に参加して頂き、自己覚知をはかる。	1年以内
2	3	ご家族に向けての情報発信が足りていない。	運営推進会議の内容を知っていただく。	運営推進会議の参加と報告書の送付を行う。	1年以内
3	3	家族会の継続。	より多くのご家族様にご参加していただく。	家族会の内容を検討する。 (ご家族さまの興味のある事などを聞き取り集計する)	1年以内
4					
5					
6					
7					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。